

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月10日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520374

研究課題名（和文） 近代中国の自画像

研究課題名（英文） Self-portraits of Modern China

研究代表者

遊佐 徹（YUSA TORU）

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：60240157

研究成果の概要（和文）：

「眠れる獅子」とは、よく知られた近代の中国に対して用いられた異称のひとつであるが、それは、一般に考えられているように他者から与えられたものではなく、20世紀の初頭に中国人がみずから生み出した「自画像」であった。本研究は、「眠れる獅子」と同時期に生まれた「東亜病夫」、「少年中国」、「三等国」といった近代中国の「自画像」の形成と機能に関して文化史研究の観点から考察を加えたものである。

研究成果の概要（英文）：

A “Sleeping Lion” is one of the famous images used to Modern China. In fact, it was not given by the others. It was the image that they themselves selected them—so to speak “Self-portrait”. This study adds consideration from a viewpoint of cultural history research about the formations and functions of the “Self-portraits” of Modern China, such as “Sleeping Lion” and “Eastern sick man”, “Boy China”, “Third grade country”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：中国近代文化史

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：近代文化史、近代中国、自己と他者、表象

1. 研究開始当初の背景

本研究課題「近代中国の自画像」は、これまで本研究費補助金を得て7年間に亘り進めてきた、文化史研究の観点を導入することによる中国近代像の書き換えの可能性を探る研究（2002年度～2004年度「中国近代文化史研究

——中国近代の自己デザイン」、2005年度～2007年度「身体論的中国近代文化史」）の発展型として構想されたものである。

本研究は、これまでの研究によって実施してきた、従来、洋務→変法→革命というリニ

アな政治思想史的枠組みに従って論述されることが多かった中国近代史の書き直しをさらに進めるための試みであるとともに、それを「表象」という事象に着目しながら実現するという点において、オリジナリティーを持った試みでもある。

2. 研究の目的

中華王朝体制末期を生きた中国人（＝自己）とそれを取り巻く諸列強（＝他者）によって新たに「想像」されることになった中国および中国人の姿を「表象」の相によって把握し、その形成と共有の過程の分析を通じて新たな中国近代像の提示を図ることを目的とする。

「睡獅（眠れる獅子）」に代表される近代中国における諸自画像をその成り立ちと波及、そして変容に関して綿密に分析し、政治思想的資料からだけではうかがい知ることのできない当時の中国人達の「近代」への立ち向かい方を解明することを通じて、政治担当者、思想的指導者以外の中国人達にとっての「近代」像—それはもちろん自己認識と他者認識が複雑に入り混じったものである—を明らかにすることが可能になり、我々にとっての中国「近代」像の問い返しのための道筋を指し示してくれるものともなり得る可能性を持っている。

3. 研究の方法と具体的内容

(1) 広義の文化史研究とは、人類文化の発展、変遷過程をその諸相について、もしくはそれらの相関関係に着目して記述する研究であるが、本研究が採用した文化史的研究手法は、より今日的な研究手法として意識されている。すなわち、文化を「意味の体系」ととらえ、その「意味の体系」を象徴する文化

的事象をピックアップし、その「文化的」解説、つまりその事象を種々多様な文化的事象との関連において分析することを通じて、それを単なる歴史的出来事から解放し、その結果として文化のなかに潜む政治や権力の構造を抉剔するとともに集団社会にとっての文化の意味を問い返すというものである。

(2) したがって、研究を進めるにあたって、まず、研究の核心部分を構成するような性質を備えた文化的事象をピックアップする必要がある。また、それと同時に、これまでの研究を踏まえた形で発展的にその作業を進めるということも重要である。

(3) その点を考慮して、本研究においては、「眠れる獅子（睡獅）」、「東亜病夫」、「少年中国」、「三等国」等の近代の中国において特徴的に現われた「表象」を選択し、その形成の過程と拡大の状況、さらに、それを支えた「力学」の存在について解明を試みた。それぞれについて具体的な研究の状況、内容を示すと次のようになる。

「眠れる獅子（睡獅）」については、洋の東西において普遍的に現われた自己—他者の政治文化的動物イメージの存在に基づき、なぜ、中国が「龍」ではなく「獅子」とされたのかを解明するとともに、「眠った」状態というイメージを中国における身体と政治の関係性の相において捉え直した。

「東亜病夫」に関しても、従来の理解である西洋人によって与えられたイメージの未ならず実はやはり中国的な身体と政治のイメージが潜むことを明らかにした。

「少年中国」も、やはり政治的身体の相で捉えるべき自画像であることは、前2者と同じであるが、肯定的な「少年」イメージが儒教的古典主義と相反することに着目して、このイメージの成立、流行に近代中国人達の価値観の激変の様相を読み取った。とくに、当時

における進化論的価値観の世界的流行がそれを支えたことが判明した。

「三等国」は、西洋近代主義、帝国主義価値観の下で世界の再序列化が進んだ結果一般化した中国の自画像（ここにもまた進化論的価値観が作用している）であったが、みずからをそのように規定することによる再生の可能性を秘めたイメージであったことに着目して、世界の再々序列化の可能性をどのように中国人達がイメージしたのかを明らかにした。

(4) 具体的研究に当たっては、従来の政治思想的枠組みを突破して中国近代を文化史的に研究するために、文学、建築、芸術、都市論等幅広い分野を視野に入れたアプローチが必要であると考え、本研究では、その点も考慮にいれた資料収集と分析を心がけた。

4. 研究成果

(1) 本研究において扱い、検討した「眠れる獅子（睡獅）」を始めとする近代中国の代表的な自画像的諸表象は、単に蔑称、自虐的アイデンティティとしてのみ機能したのではなく、それぞれが危機意識の顕在化とその克服の可能性を指し示す積極的な機能を果たすものであったということを明らかにすることができた点において、一般的に政治思想の変遷によってのみたどられることが多かった中国の近代の歩みの一端をより生き生きと描き出すことができた。

(2) 特に諸表象が出揃う時期となった1900年前後は今後中国の近代史を考えてゆくうえで、ひとつのキーポイントとして扱うことができるだろうとの実感を持った。それが政治思想史的にはやがて革命論が台頭する時期にやや先立つことは、中国近代を捉え直す上で極めて示唆的であると思われる。

(3) さらに重要な点として、それら表象が容

易に図像化されて当時勃興しつつあったジャーナリズムを通じて、文字なき人々にまで行きわたったことが確認されたことで、近代の中国が広範な人々によって「想像」されたものとなっていたことが判明したことは、これまで「阿Q」の相によって一般民衆を政治担当者とは区別しながら近代史を思い描いてきた研究状況の不備を指摘するものとなった。

(4) 今後は、上記のふたつの点、すなわち、1900年前後に焦点を当てたときに可能となる中国近代のダイナミックな把握と、今回取り上げた「表象」面以外での中国人自身による近代中国の「想像」のあり方、共有の特徴の分析、それらの機能の解明というテーマを追求してゆきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①遊佐 徹、梁啓超が描いた中国の自画像 (資料編)、中国文史論叢、査読有、6号、2010、167-196
- ②遊佐 徹、「獅子」か「龍」か——近代中国の自画像と「眠れる獅子（睡獅）」、中国文史論叢、査読有、8号、2011、137-148
- ③遊佐 徹、「やまとひめ」と中国近代、岡山大学文学部紀要、査読無、55号、2011、83-94
- ④遊佐 徹、近代中国の自画像 序説——「睡獅」、「東亜病夫」、「少年中国」、「三等国」、岡山大学文学部紀要、査読無、53号、127-143

[学会発表] (計0件)

〔図書〕（計2件）

- ①遊佐 徹、岡山大学文学部研究叢書31、中国近代文化史研究—時間・空間・表象—、2011、201
- ②遊佐 徹、白帝社、蠟人形、銅像、肖像画——近代中国人の身体と政治、2011、165

〔産業財産権〕

- 出願状況（計0件）
- 取得状況（計0件）

〔その他〕

関連研究における研究報告書

- ①遊佐 徹、22年度岡山大学文学部プロジェクト研究『東西宗教史における表象観念と文化』研究報告書、2011年、125

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遊佐 徹 (YUSA TORU)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：60240157

(2) 研究分担者

なし